グローバル・スタディーズ研究科

グローバル・スタディーズ専攻

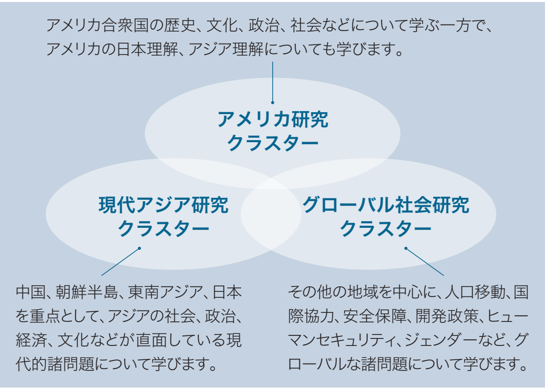
グローバル・スタディーズ研究科とは

今日においては、これまでグローバルに共有されてきた価値や制度が多くの危機に直面しています。また、経済的、社会的格差は、今やいかなる社会でも大きな問題となっています。

このような状況に対処していくためには、単一の学問体系だけでは十分ではなく、様々なアプローチを総合した新たな視点からの研究が強く求められています。本研究科は、アメリカ研究、現代アジア研究、グローバル社会研究という3つのクラスターから構成され、地域研究として世界中の広範なエリアをカバーしています。また、ジェンダー、人種差別、格差、平和的共生、地球環境などのグローバルな研究には、地域横断的、学際的なアプローチで、クラスターの枠を超えて学修する場も提供しています。本研究科は、グローバルな視野と高い問題意識を持ち、論理的かつ問題解決のための実践的能力を身に付けた、高度職業人、教育者、研究者を育成することを目指しています。

3つのクラスターと充実したカリキュラム

必修科目においては、課題発見から研究プロジェクトの組み立て、発表までのプロセスを、徹底的に指導します。選択科目においては、自らの研究テーマに関連した専門知識を深めるとともに、隣接・関連テーマの知識を習得し、広範な視野を養います。開設以来、カリキュラム改革を積み重ね、クラスターの壁をより低くした特色豊かなカリキュラムを運用しています。



▲
アドミッション・ポリシー

▲
詳細は Web へ

2023年度 グローバル・スタディーズ研究科 担当教員の研究テーマ

❶研究テーマ ❷研究概要 ❸論文・著書

秋林 こずえ 教授

❶ジェンダーと平和、軍隊と性暴力
❷国際フェミニスト平和運動、安全保障の脱軍事化・脱植民地化、軍隊の長期駐留と性暴力、紛争と性暴力
❸①Documenting the History of Sexual Violence by the US Military in Okinawa: Feminist Theorization of "the Island of Military Bases", Okinawa Journal of Island Studies, 2022, 3(2), 149-157. ②共著『沖縄にみる性暴力と軍事主義』御茶の水書房，2017

Gavin J. CAMPBELL 教授

❶アメリカ史、アメリカ宗教、トランスナショナルアメリカ研究
❷日米文化交流史、ファッション研究
❸Styling Hirohito: Modernity, Monarchy and 'Western Clothes' in Interwar Japan, Fashion Theory, 2021, 25, 1-27.

Anne GONON 教授

❶災害後の生活様式の変容
❷災害の後、普通の生活に戻るという復帰は、震災で中断されたイベントの単なる再開ではない。危機の中で何を学んだのか、また忘れ去られるべきなのかを問う。
❸『生活形式と脆弱性―倫理としてのケア』萌書房，2021

菅野 優香 教授

❶フェミニスト映画理論、クィア映画研究、視覚文化
❷フェミニズムおよびクィア・スタディーズをもとに、映画やアート、パフォーマンスなどにアプローチする。
❸『クィア・シネマー世界と時間に別の仕方で存在するために』フィルムアート社，2023

菊池 恵介 教授

❶グローバリゼーション論、レイシズム研究、フランス地域研究
❷新自由主義の歴史的展開と、その帰結（階層格差の拡大とバブル経済、ポピュリズム）の研究
❸①「新自由主義の覇権の終焉」『世界 10月号』2022, 84-97. ②「ユーロ危機の真相」『世界 8月号』2020, 242-248.

三牧 聖子 准教授

❶アメリカ政治外交史・国際関係・平和研究
❷20世紀アメリカの政治と外交、アメリカと戦争、平和思想と平和運動の発展の歴史、世界秩序におけるアメリカの役割
❸①分担執筆『バイデンのアメリカーその世界観と外交』東京大学出版会，2022 ②共著 American Empire in Global History, Routledge, 2021 ③『戦争違法化運動の時代』名古屋大学出版会，2014

南川 文里 教授

❶社会学、アメリカ研究、人種エスニシティ研究、移民研究
❷アメリカ合衆国における多文化主義の形成と展開、移民・市民権政策の国際比較、在米日系人社会の歴史的変容
❸①『アメリカ多文化社会論（新版）ー「多からなるー」の系譜と現在』法律文化社，2022 ②『未完の多文化主義ーアメリカにおける人種、国家、多様性』東京大学出版会，2021

峯 陽一 教授

❶開発研究、人間の安全保障、アジア・アフリカ関係
❷安全概念の哲学的掘り下げ、開発実践における人間の安全保障の応用、世界史のなかのアフリカ・アジア関係の理解
❸①『開発協力のオーラル・ヒストリー』東京大学出版会，2023 ②Connecting Africa and Asia, Routledge, 2022

村田 雄二郎 教授

❶中国近現代史・日中関係史
❷19世紀から20世紀の中国の政治史・思想史を、日本を含めたグローバルな文脈をふまえて研究している。
❸①編著『アジア人物志 第8巻 アジアのかたちの完成』集英社，2022 ②『語言・民族・国家・歴史ー村田雄二郎中国研究文集』重慶出版社，2020

内藤 正典 教授

❶移民・難民研究、現代イスラーム地域研究
❷トルコの国際政治と社会変動を周辺地域との関係から考える
❸①『トルコから世界を見る』筑摩書房，2022 ②『限界の現代史』集英社，2018

中西 久枝 教授

❶中東ユーラシアの紛争防止、国際協力論
❷中東、中央アジア、コーカサス地域を中東ユーラシアと捉え、紛争や潜在的な紛争をいかに国際社会が防止しうるのかを国際政治学や安全保障学の立場から研究する。
❸分担執筆『アジアの平和とガバナンス』有信堂，2022，第7章、第13章

西川 由紀子 教授

❶国際関係論、平和研究、東・東南アジアの安全保障
❷東・東南アジア地域における国際関係を多様な側面から研究（安全保障・人間の安全保障、紛争の平和的解決や紛争後の平和構築における国際社会の関与など）
❸①International Norms and Local Politics in Myanmar, Routledge, 2022 ②Globalization and Local Conflicts in Africa and Asia, Springer, 2022

岡野 八代 教授

❶ケアの倫理とフェミニズム思想
❷近代国家が前提とする「自立した個人」は、人生における依存状態や、依存する者をケアする活動を過小評価してきました。ケアの視点から伝統的な政治の考え方や民主主義を再考しています。
❸『ケアするのは誰かー新しい民主主義のかたちへ』白澤社，2020

太田 修 教授

❶朝鮮近現代史、近現代日朝関係史、近現代朝鮮半島政治・社会・文化
❷近現代朝鮮半島の政治・社会・文化の変容の過程を、内部の歴史展開、日本との関係、東アジアの冷戦という観点から考えている。
❸①編者『동아시아 냉전의 문화（東アジア冷戦の文化）』소명출판，2017 ②『（新装新版）日韓交渉』クレイン，2015 ③『朝鮮近現代史を歩く』思文閣，2009

小山田 英治 教授

❶開発途上国と新興国における開発とガバナンス問題研究
❷途上国や新興国のガバナンス問題がどのように国家開発や成長を促進し、何が阻む要因となっているか分析する研究
❸①『東南アジアにおける汚職取締の政治学』晃洋書房，2022 ②『開発と汚職』明石書店，2019 ③『開発政治学を学ぶための61冊』明石書店，2018

錢 鷗 教授

❶近現代中国・日本・フランスにおける新古典研究の相互作用とその問題点
❷近代アカデミズムの枠組みを批判的に検討し、現代思想・学術・文化とそれを取り巻く歴史的政治的文脈を精査する
❸「1917年內藤湖南的中國訪問與羅振玉」『国際シンポジウム論文集 内藤湖南研究の最前線』関西大学，2023.

冨山 一郎 教授

❶沖縄近現代史研究、日本研究
❷領域横断的な視点から研究に取り組んでいます。また研究行為それ自体の知識社会学的検討にも取り組んでいます。
❸『始まりの知―ファノンの臨床』法政大学出版局，2018

厳 善平 教授

❶現代中国の社会と経済
❷改革開放時代の中国における経済発展と社会変動にかかわる諸テーマ（人口移動、教育、経済格差、社会階層）について理論的実証的に研究する。
❸①『ミクロデータからみる現代中国の社会と経済』勁草書房，2021 ②『農村から都市へー1億3000万人の農民大移動』岩波書店，2009

周 俊 助教

❶中国政治史、中国共産党史
❷中国共産党の秘密主義と情報システム、毛沢東研究、史料学研究
❸①「現代中国における中央指導者の地方視察とその政治的意義（1949-1955）ーGISによる可視化の手法を用いてー」『アジア経済』2022, 63(4), 2-32. ②「組織的血脈：党内交通研究的再検視」『新華文摘』2022, 8期／総740期，67-69.

TOPICS 活発な議論・交流の場の提供と充実した研究支援

研究科の学生と教員が構成員となるグローバル・スタディーズ学会では、毎年、パネルセッションやポスターセッションを開催しています。学生が研究成果を報告し、活発な議論と交流が行える場を提供しています。また、『同志社グローバル・スタディーズ（Journal of Global Studies）』を発行し、研究論文を出版する機会を設けています。2017年度からは、学問分野や地域を超えて時代の課題を自由に議論しようという趣旨から、2つ目の雑誌『RONDO 論堂』も刊行しています（RONDOとはエスペラント語で「サークル」を意味します）。2022年度からは、発表された論文、学会報告、ポスターの中から優秀なものを表彰する制度（学会賞）を設けました。学生のフィールドワーク実施にかかる経費支援を行うなど、それぞれの研究を充実した環境で行える体制を構築しています。日本政府が行う国費外国人留学生制度や国際協力機構（JICA）との連携による留学生を受け入れており、多様な国籍の学生が集う場となっています。

アメリカ研究所と５つの研究センター

同志社大学では、文理融合や領域横断による創造的研究活動を推進し、学術研究の進展及び新しい研究分野の開拓に資することなどを目的として、研究センターを設置しています。以下の研究所、研究センターの運営には、グローバル・スタディーズ研究科の教員が主導的に関わっており、学生も積極的に研究活動に参加しています。

● アメリカ研究所

研究分野を限定せず、アメリカ合衆国と諸外国との関係、諸外国におけるアメリカ研究の実態までを幅広く対象として含み、同志社大学内外の研究者が参加する「部門研究」といわれる共同プロジェクト研究を実施しています。またアメリカ研究に関連する貴重な資料を豊富に取り揃え、公開しています。

● コリア研究センター

朝鮮半島研究に関わる研究会、国際学術会議、若手ワークショップ等の開催、共同研究プロジェクトの実施等を通じて「コリア研究次世代育成京都コンソーシアム」の拠点を形成し、京都における朝鮮半島研究を活性化させるとともに、次世代の朝鮮半島研究者の育成を図っています。

●〈奄美－沖縄－琉球〉研究センター

奄美諸島を含む琉球諸島に関わる歴史と現代的諸問題について、共同研究を遂行するとともに、奄美、沖縄、琉球に関わる若手研究者の育成並びに若手研究者による継続的な研究ネットワークの構築を目的として活動しています。

● フェミニスト・ジェンダー・セクシュアリティ研究センター

フェミニズム・ジェンダー・セクシュアリティ研究者が集い、対外的にその研究成果を発信することで、多岐にわたるフェミニズム研究の一拠点となること、そして本学の教育理念である「自由主義」「国際主義」を実践することを目的として活動しています。

F.G.S.S. Center for Feminist, Gender & Sexuality Studies

● ヒューマン・ディグニティ研究センター

現代世界において、既存の領域主権国家秩序の崩壊が進行したことにより人の国際移動が常態化するなかで、喫緊の課題である多文化共生を「人間の尊厳」の視点から実践的に考究しています。

● 都市共生研究センター（MICCS）

都市共生研究センターは「排除を生まない都市」に向けた理論や実践を分析し、その知見を活かすことを目指します。具体的には（1）移民やマイノリティを取り巻く状況の研究、（2）差別・排除を解消するためのプログラムの構想、（3）社会的認識を高めるための上映会やアートイベントなどの実施を三本柱とします。

MICCS Multiculturalism and Intersectionality in Complex Cities

【参考ページ】

GS研究科HP内
「研究センターの紹介」
https://global-studies.doshisha.ac.jp/research/research_centers.html ▶

研究開発推進機構HP内
「学際的研究拠点・中核的研究拠点」
https://kikou.doshisha.ac.jp/overview/center/list.html ▶